

第9回総務文教常任委員会会議録

- 1 開会日時 令和元年8月20日（火）午後2時0分
- 2 閉会日時 令和元年8月20日（火）午後3時58分
- 3 会議場所 議会委員会室
- 4 出席委員
 - 1 番 永徳 省二君 3 番 佐藤 武君 7 番 大口 浩志君
 - 1 2 番 北川 勝義君 1 6 番 下山 哲司君 1 7 番 実盛 祥五君
- 5 欠席委員
な し
- 6 説明のために出席した者

副 市 長	前田 正之君	副 市 長	川島 明昌君
教 育 長	内田 恵子君	総合政策部長	安田 良一君
総 務 部 長	塩見 誠君	財 務 部 長	藤原 義昭君
教 育 次 長	藤井 和彦君	赤坂支所長兼 市民生活課長	土井 常男君
熊山支所長兼 市民生活課長	矢部 恭英君	吉井支所長兼 市民生活課長	是松 誠君
消防本部消防長	井元 官史君	秘書広報課長	小引 千賀君
政策推進課長	花谷 晋一君	総 務 課 長	小坂 憲広君
くらし安全課長	岡本 和典君	財 政 課 長	和田美紀子君
管 財 課 長	戸川 邦彦君	税 務 課 長	遠藤 健一君
教育総務課長	安本 典生君	学校教育課長	家森 康彰君
社会教育課長兼 スポーツ振興課長	土井 道夫君	消 防 本 部 消防総務課長	檜原 秀幸君
- 7 事務局職員出席者

議会事務局長	元宗 昭二君	主 事	松尾 康平君
--------	--------	-----	--------
- 8 協議事項 1) 事業の進捗状況について
2) その他
- 9 議事内容 別紙のとおり

午後2時0分 開会

○委員長（北川勝義君） ただいまから第9回の総務文教常任委員会を開催いたします。

開催に当たりまして、前田副市長のほうから御挨拶いただきたいと思います。

○副市長（前田正之君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 前田副市長。

○副市長（前田正之君） まず、本日は友實市長が別の会議のほうへ出席しておりまして、大変恐縮ですがこちらのほう欠席いたしております。どうぞよろしく願いいたします。

また、本日は第9回の総務文教常任委員会、お開きいただきまして、大変お忙しいところありがとうございます。協議事項の中で、事業の進捗状況、そしてその他の案件といたしまして、9月定例会への案件等につきましても触れさせていただきたいと思います。慎重なる御審査をいただきまして、今後の業務に役立てたいと思っております。本日はどうぞよろしく願いいたします。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。

それでは、協議事項に入りたいと思います。

1番目の事業の進捗状況について、執行部から説明を願いたいと思います。

○秘書広報課長（小引千賀君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○秘書広報課長（小引千賀君） それでは、総合政策部資料1ページをごらんください。

第3回あかいわ映画祭りについて御報告いたします。

7月28日日曜日に桜が丘いきいき交流センターであかいわ映画祭り実行委員会が開催いたしました第3回あかいわ映画祭りには、市内外から約380の方が御来場いただきまして、多くの方が映画やゲストとの交流会、桃を中心としたイベントや特産品の販売などで1日楽しめました。映画終了後に行われました、あかいわ広報大使である佐々部清監督、俳優の井上順さん、濱津隆之さんのトークショーも大変好評でした。

当日実施いたしましたアンケート結果につきましては、2ページをごらんください。

「カメラを止めるな！」というアカデミー賞受賞作品でもある話題作の上映により、これまで約7割が50代以上の参加者で占められておりましたが、今回はさまざまな年代の方に御来場いただけたことがわかります。また、これまで市内からの来場者が6割から7割を占めておりましたが、今回、市外からの来場者が半数を超えました。3年目を迎えて、市外の方にも周知されてきたのではないかと考えております。自由記載の感想欄へは、市内で名作を楽しむことができるとてもうれしい、市内でロケをした映画を地元の方と一緒に見ることができて、もう一度赤磐を好きになるきっかけになった、トークショーも楽しかったが監督や俳優との交流会ではまた違うすばらしい時間が過ごせた、といった肯定的な御意見を多くいただきました。

また、同時に開催した桃のイベントのほうも非常に好評で、桃のカッティング教室では、有名な先生にお会いできた、桃以外の果物の切り方も含めて小学生にも優しく教えてもらって喜んでいたなどの感想を、また、完熟の桃を氷の入ったたらいに浮かべ召し上がっていただいた桃の丸かぶりコーナーは、旬の桃を丸ごと食べられる機会はなかなかないのでうれしいといった感想をいただきました。これら、いただいた御意見につきましては、今後の事業に活かしてまいりたいと考えております。

また、ボランティアやエキストラの方など、さまざまな形で市民の方に参加をいただきました。赤磐の魅力を発信するすばらしい作品となっております映画「種まく旅人～夢のつぎ木～」がもとで始まった映画祭りでございます。これまで、この映画の監督である佐々部清監督の御協力をいただきまして、映画の選定やトークショー出演の俳優への声かけなど、ほかの自治体ではなかなかできない企画を続けてこられました。今回までの実績を踏まえまして、3年間を一つの区切りとして、次年度以降の事業展開につきましては、開催日程は本当に夏がよいのか、また半日のほうが集まりやすいのではないかなど、実行委員会でも十分検討してまいります。

秘書広報課からは以上です。

○政策推進課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○政策推進課長（花谷晋一君） 政策推進課より、(2)公共交通について御報告します。

資料は3ページをごらんください。

前回の委員会で、赤磐循環バスの休止に対する市の対応を整理することとの宿題をいただきまして、改めて現在の状況を御報告します。

①赤磐循環バス休止前後の区間別便数について記載をさせていただいております。資料の左上の黒の四角で囲んでおります部分につきましては、赤磐循環バス休止後の状況や、バスの運行曜日について凡例として記載しております。

中央の路線図をごらんいただきまして、桜が丘と山陽団地についてのみ記載をさせていただいておりますが、青く囲んでおります区間は宇野バス路線がある区間、黒く囲んでいる区間は市民バスのみの路線がある区間、赤く囲んでいる区間はバス路線がない区間として色分けをしております。それを地域別に見ますと、資料右側の部分になります。

まず、桜が丘について御説明します。青く囲んでいる区間につきましては、循環バス休止後は26から55便のバスが毎日走っております。黒く囲んでいる桜が丘の中央の交差点からいきいき交流センターのほうへ向かいまして桜が丘東1丁目までの区間につきましては、循環バス休止後は市民バス松木・下市線のみ1日4便となっております。赤く囲んでおります桜が丘西のダイワハウスの事務所を入った通りと桜が丘東1丁目からコインランドリーのある交差点までにつきましては、循環バス休止後はバスが走らなくなったルートとなっております。

続きまして、山陽団地につきましては、同じく青く囲んでいる区間につきましては、赤磐循環バス休止後は、中央路線が25便、西路線が14便のバスが毎日走っております。赤く囲んでいる東幹線の区間につきましては、循環休止後、バスが走らなくなったルートとなっております。各バス停から下市方面に向かうバスについての便数だけ抜粋して記載させていただきました。下市方面から戻ってくるバスも、一部を除きまして同数の便数がございます。

続きまして、資料4ページをお開きいただきまして、②バスの乗り方教室を地域の御要望をいただきまして、8月9日に山陽7丁目で開催させていただきました。一般の参加者は11名でした。10名の方は高齢の女性の方で、1名は付き添いで来られたお子さんでした。10名の皆さんが赤磐循環バスを御利用されていた方で、買い物はイズミ、病院は医師会病院や那須眼科などを利用しておられるとのことでした。現在、皆さんがそれぞれライフスタイルに合わせて移動されておりまして、現在のバスを乗り継いで移動されている方が8名、家族の方に送迎をお願いしている方が2名でした。

乗り方教室では、バスの時刻表を確認し、最寄りのバス停から目的地までの時刻などを記入したマイ時刻表を作成し、それぞれお持ち帰りいただきました。

皆様の御意見としましては、再び循環バスを運行してもらいたい、循環バスの利用者が少なかったのも事実であることは理解しています。利用者が少なければ便数が減るのは仕方がないことだが、中経由の午前中の便を1便でも西経由にしていだけないか、などの御意見をいただきました。また、参加された皆さんは、バス路線を残すために自分たちが積極的にバスに乗ったり友人にも発信していきたいという思いを強く持たれたようです。バスがどの道を何時に通っているかなどの情報を御存じない方が多くおられますので、まずは今後、乗り方教室などの広報活動を続けてまいりたいと思っております。

政策推進課からは以上です。

以上で総合政策部の説明を終わります。

○教育総務課長（安本典生君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○教育総務課長（安本典生君） それでは、教育委員会資料をお願いいたします。

引き続き、事業の進捗状況について、まず教育総務課から、赤磐市内幼稚園及び小学校の運動会の開催について御説明のほうさせていただきます。

教育委員会資料1ページ、2ページをお願いいたします。

市内の小学校、幼稚園の運動会の開催日について御案内を申し上げます。

既に委員の皆様には御案内のほうさせていただいておりますが、資料のとおり、小学校は9月29日日曜日に、幼稚園は10月5日土曜日に開催でございます。御多忙の折とは存じますが、御臨席いただきますよう、よろしくをお願いいたします。

教育総務課からは以上でございます。

○学校教育課長（家森康彰君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○学校教育課長（家森康彰君） 全国と県の学力・学習状況調査の結果が出ましたので、報告いたします。

学力・学習状況調査は4月18日に実施されました。文科省主催の全国学力・学習状況調査は小学校6年生と中学校3年生を対象に、岡山県主催の県学力・学習状況調査は小学校3、4、5年生と中学校の1、2年生を対象に実施されました。小学校と中学校1年生は国語と算数、数学の2教科、中学校2年生と3年生は英語を加えた3教科の学力調査を行いました。学習状況調査は、小学校の5、6年生と中学校1、2、3年生で実施しました。

教育委員会資料の3ページをごらんください。

(1)に赤磐市の全国学力調査、小学校6年生と中学校3年生の結果を示しています。調査を行った全国の児童・生徒の平均正答率を50としたときの相対的な位置を示す指標であらわしています。昨年までは知識問題のAと活用問題のBの2つに分かれていましたが、今年度から、知識と活用を一体で問う問題に変更になっています。小中学校ともに国語は全国平均と同じ、算数、数学はわずかに全国平均を下回っています。今年度実施された中学3年生の英語は、全国平均を2ポイント程度下回っています。現在の中学3年生が平成28年度に小学校6年生であったときに行われた全国学力テストの結果と比較してみると、国語については去年の中学3年生に引き続き、若干の伸びを示しています。数学もほぼ力を維持しています。

4ページをごらんください。

赤磐市の岡山県学力調査、小学校3年生から中学校2年生までの結果を示しています。平成31年度の小学校国語については、3年生と5年生は1ポイント全国平均を下回っていますが、4年生は全国平均と同じです。算数については、3年生は全国平均よりも3ポイント、4、5年生では昨年度との経年変化を見ると1ポイント下回っています。4年生、5年生を平成30年、29年と経年比較で見ると、4年生の国語は全国平均を維持、5年生は平成29年度から全国平均に近づいています。

次に、学習状況調査についてです。

1ページ戻っていただいて、3ページをごらんください。

(2)に全国学習状況調査の小学校6年生、中学校3年生の結果があります。計画を立てて学習をしているの項目については、小学校、中学校ともに全国平均を上回っています。また、1時間以上学習している児童・生徒の割合は、小中学校ともに全国平均を上回っています。特に、岡山県の中学3年生は、小学校6年生のときと比べて1時間以上学習する生徒の割合が下がる傾向にあります。しかし、赤磐市は3年前の小学校6年生のときと比べて8%上がっています。今回、データが公開されている岡山市内の市町の中では県内2市のみです。

5ページをごらんください。

(2)に岡山県学習状況調査、小学校5年生、中学1年、2年の結果があります。手書きの数字で書いてあるものは、県の平均値を書いています。学習計画を立てている小学校5年生、中学1年生は県平均とほぼ同じ、中学2年生は県平均を4ポイントほど上回っています。また、1時間以上学習している児童・生徒の割合は、中学1年生は昨年度よりも11ポイント増加し、中学2年生は昨年度よりも減少しているのですが、県平均よりは上回っています。

今回の調査から課題と考えるものは、次の3つです。

1つ目は、英語の正答率が全国平均を下回っていることです。県平均とは大きな差はありませんが、学校間で差があります。全国、県の平均を上回っている学校の取り組みや授業の様子について情報共有をするとともに、今年度中2、中3で行っている、読む、書く、聞く、話すの4技能を検定するGTECによる分析により、授業の改善をさらに進めていきます。

2つ目は、基礎学力、問題を読み解く力の定着です。それぞれの問題を細かく分析すると、基本的な用語の理解が不十分であることや、問題の内容の理解が十分にできていないことによる間違いがあります。児童・生徒自身が学習について自分事と考えられるような学習課題の持たせ方や学習の振り返りができるように指導を徹底すること、さらに支援員または学生ボランティアの配置により個に応じた支援の充実を行っていきます。

3つ目は、一日のゲームの時間が1時間未満の児童・生徒の割合が低いことです。特に、中学2年生は小学校6年生のときから毎年減少しています。赤磐市では、児童会や生徒会がメディアの使い方について取り組んでいます。中学生が小学校に行きスマホの使い方について話をする取り組みもあります。また、岡山スマホサミットが発足して以来、毎年参加する中学校もあります。保護者、地域の方も含めて取り組みの啓発に努めてまいります。

以上です。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） それでは、社会教育課から日本遺産についての説明をさせていただきますので、お手元の資料の6ページをお開きください。

日本遺産の取り組みについて、平成30年度の実績と令和元年度の事業計画について報告します。

昨年5月に岡山、倉敷、総社、そして本市の4市共同で申請しました「桃太郎伝説」の生まれたまちおかやま～古代吉備の遺産が誘う鬼退治の物語～」のストーリーが日本遺産に認定されまして、6月に4市の協議会が設立されました。

6ページの3の平成30年度の事業実績といたしましては、PRのための動画やパンフレット、小学生向けの学習漫画を制作し、その情報発信を行っているところでございます。

次に、7ページの5、日本遺産に関連する市内の動きといたしまして、地元酒造会社からは、本市の構成文化財となっている両宮山古墳にちなんだお酒、両宮山が販売されるなど、日

本遺産による活性化の取り組みも少しずつ始まっています。

6の令和元年度の事業計画につきましては、4市で構成する日本遺産協議会において情報発信、人材育成、商品造成、公開活用のための整備の4つの事業を柱として、日本遺産に認定されたストーリーを通じて国内外に積極的に情報発信や観光客を受け入れるためのさまざまな対策を講じて、地域の認知度向上や観光客誘致を図ることとしております。

7の単市事業計画といたしましては、赤磐市に特化したパンフレットの作成や、現在行っている両宮山古墳の墳丘裾の保存工事を進め、日本遺産認定を機に地域住民への理解を深め、郷土の愛着心を育む取り組みなどを推進していきたいと考えております。

続きまして、スポーツ振興課から1点御報告させていただきます。

資料の次第にはございませんけれど、今お手元のほうに配らせていただいております、ニュージーランド代表女子ホッケーチームの赤磐市の事前キャンプでございます。この事前キャンプにつきましては、議員の皆様を初め市民の方々にお世話になり、大変ありがとうございました。そのときの様子の記録をお手元のほうに配付しております。一度ごらんになってください。なお、今回の皆様のおもてなしにより、来年のオリンピックの出場が決まれば、また赤磐市でキャンプをしたいとの意向をいただいております。来年のオリンピックには、市民の皆様のおもてなしによりチームがメダルを獲得できるようサポートしていただきたいと考えております。御協力のほどよろしくお願いたします。

以上、教育委員会からの報告を終わります。

○委員長（北川勝義君） 執行部のほうから説明が終わりました。

皆さん、何か御意見がありましたら、前後しても結構ですから質問お願いしたいと思いません。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） ありがとうございます。

交通問題の分で、今の赤丸がかかるとの部分ですね。考え方として、どういう考え方が今現在あるのか、今後考えるなら今後考えると。どういう考え方で今おられるのかだけお聞きしたいと思えます。

○政策推進課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○政策推進課長（花谷晋一君） 赤丸の部分につきましては、循環バスがなくなった路線ということでございます。このバスにつきましては、市民バスのルートを変更してこの路線をカバーできないかとか、いろいろなことを考えましたが、今のところは最寄りのバス停まで出ていただいて、そこからバスを御利用いただくというふうに、今のところは考えてございます。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 下山委員、よろしいか。

下山委員。

○委員（下山哲司君） この前もお話したように、お年寄りの人がバッグを引きずって帰るようなのを余り見とないんで、できるだけそういう部分に関してのことができることがあったら検討してしっかりやっていただきたい。きょうのところはそれで結構です。

○委員長（北川勝義君） 関連してですけど、この間の打ち合わせでも副委員長とお話しさせてもろうたんじゃけど、下山委員がどうこう言うんじゃない、皆さんが、おおむねの人がこういう疑問を持って、山陽団地とかネオポリスのところ、いろいろの赤丸のところの心配があるということがあって、山陽団地は何ぼかできるということがあったんじゃけど、委員長の私が言うのはおかしいかもしれん、全体的に、はっきり言うて、不規則な発言があったら削除させていただきますけども、今自分で思よんが、赤磐市のほうも民間バスの業者に気を使い過ぎとるんじゃねえかという話も出とんで、それは実際のことで、行政がそうですよ、そのとおりですというのはいえんと思うんじゃけど、やっぱりいつまでも気を使うていくのもいけんということで、議員さんが、今見て乗りようところが、今言うのはキャリアカーを年寄りが引いたり押していきようような姿は見とねえということは今言われよん、僕も事実見たんで、それは見とねえというんで、そこそこの中で言うたら、ネオポリス、山陽というのはまあ町なかじゃと思よんじゃけど、町なかでも勾配もきちいし、勾配もありゃあ、やったげる、年長者も多いけん、やるべきじゃと思う。吉井と赤坂とかと比べりゃあ幸せな、恵まれとんかなあとと思うんじゃけど、そういうこともあるんじゃけど、やっぱり初めからなかったところがねんじゃったら辛抱があるんじゃけど、あったところがうなったというのは物すごい辛抱が違うんで、それを一概に山陽団地とかネオポリスの循環バスだけやれというんじゃねえけど、今後その業者のこともあるけど、いろいろ考えてもろうて、循環バスの公共交通のところ課をつくるんじゃねえけど、ちょっと抜本的に考えてもろうて、一長一短にきょう言うたからすぐできるというんじゃねんじゃけど、全体のことを考えてやってもらえりゃあなあと思うたり。

それから、この間から、僕の個人的な一般質問とかじゃねんじゃけど、今消防学校ができとることか、あの辺からメインに道が新しゅう、広域、美作岡山ができとんで、きょうも農協で話をしようたんですけど、うちに来るときはどっち来ますかというて話が出て、瀬戸へ来るか、熊山へおりてくるかというたら、岡山へ行くのはどうなるんて言うたら、農協の関係の人がよう聞きようて、岡山市内へ行くんじゃったら熊山からおりてくるというんです。やっぱり熊山からのほうが走りやすいというて。岡山市内へ買い物に行くには。それから、逆に言うたら、西大寺のほうへ行くんじゃけど、何分にも瀬戸へおりたところが長えからどうもわからんというて、危ねえというんで、できたら、それで前言うた、赤磐のほうも突き当たってわかりやすいんじゃけど、もうちょっと回りやすうしてくれという要望も出とったりするんで、そういうことになりゃあ、交通体系の1つも変えていきゃあ、そこだけじゃなしに、それを通して

いきやあ1つのルートもできるんじゃないかと思うて。そうしたら、ネオポリスまで上がれる、別におかしいことじゃねんじゃないけど、すうっと通っちゃあ1つの方法で行ける、下山さんがずっとほかの言い方しようたバスの関係じゃな、民間タクシーの、あねえなんも重要なことで考えてくれえというて、この間の委員長、副委員長の打ち合わせじゃあ下山さん、言うとりますんで。それでまあ、ここで即答でやっちゃうやこうできんと思うんじゃないけど、それ考えてくれえとお願いしとりますので、皆さんも、余り言うて興奮ばあさせて怒らすのも手じゃねえと思うとんで。ということですので、そういうこともよく考えていただきたいと思っております。

下山さん。

○委員（下山哲司君） 僕は、それをせえというて言うんじゃないしに、そういうことを土台として勉強して赤磐市に合うた、赤磐市のやり方をやってほしいという表現で、表現が悪くて申しわけないんですけど、そういう気持ちなんで、そういうふうに理解してください。

○委員長（北川勝義君） まあ同じじゃけど、そういうことで、即どうこうするんじゃないけど、委員の皆さんも言ようたように、よう通うていってもろうて、民間業者のどこへも、どうい方法がええか知恵をかしてくれという御相談も1つの方法じゃと思うんで、ぜひお願いしたいと思います。

他にありませんか。

○委員（永徳省二君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 永徳委員。

○委員（永徳省二君） 今の質問に関連してなんですけど、赤いエリアの人たちをブルーのところ、いわゆるバス停があるところまで誘導してもらおうようにお願いするということなんですけど、具体的そういう誘導するような施策、何か打ってるんですか。

○政策推進課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○政策推進課長（花谷晋一君） 先ほどちょっと御説明を差し上げました、やはり施策といいますか、バスの乗り方教室を開催させていただいて、最寄りのバス停が本当にどこなのかというのをお示しさせていただくのが一番じゃと思います。それぞれの家から距離が違いますので、そういうふうに、実情に合うた少人数での教室を開催したのが一番効果的かなと思っておりますので、要望いただきましたら即座に日程調整をさせていただきたいと思っております。

以上です。

○委員（永徳省二君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 永徳委員。

○委員（永徳省二君） 山陽団地では開催されてますけど、桜が丘はどうされるんでしょうか。

○政策推進課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） はい。

○政策推進課長（花谷晋一君） 折を見て広報させていただきまして、開催要望ございましたら、5人以上おられれば伺いますので、皆様も……。

○委員長（北川勝義君） 課長なあ、部長もじゃけど、折を見てやろうじゃという話じゃのうて、山陽やったんじゃから、委員さんも言われて、関連の最寄りの町内会長さんに相談して、町内会長がやらんでよろしいと言うんじゃったらええけど、やってくれという話が出ると思うんで、そこらは前向きにやってあげてください。折を見てというたら何か小ばかにしとるような、ちょっと言い方悪いんじゃけど。ぜひそういうことで、お願いしますから、副市長、そういうふうに、両副市長おられるんじゃけえ、やってください、それは。1人でおろうと同じことじゃから。それでもこういう話しようたらうらやましいと言うで、吉井や赤坂やこう見たら、でええええ話じゃなあというて、要らんことじゃけど。ぜひお願いします。

ちょっとみんなで考えてくれ、これも絡みで言うた、イズミへ行くのが多いというのがあるでしょう。マルナカのほうやこうは、これ今見ようと、マルナカには行く便があらあな、今行きようるわな。これ、今まで行きようた人もマルナカへは行きようらんなんだんか、山陽団地の。行きようらんなんだというのは、イズミでもう物足りるとという、別にイズミやマルナカの話しようんじゃねんじゃけど、ええということかなあ、どんなかったんか。

○政策推進課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○政策推進課長（花谷晋一君） たまたまかもしれませんが、今回寄られた10名の方は皆さんイズミへ行かれるということでございました。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 今の話で聞くんじゃねえけど、今の話は、イズミは前から年寄りの人がお客でついとるからというような話なん。

○委員長（北川勝義君） まあな、変わらんのかもしれんなあ、山陽団地はな。

○委員（下山哲司君） 1回聞いたことがある。

それから1つ聞きたいのは、ガイド育成、この人材育成、日本遺産の魅力発信の推進事業の中で、どのようなスタンスのガイド育成なんか、それだけちょっと教えてください。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） このガイド育成といいますのは、協議会のほうでガイドを育成するというので、そちらのほうにお任せをとりまして、その辺今、それぞれのカリキュラムをこしらえながら協議会のほうで作成しとるところでございます。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） ほんなら、全体の中でということじゃな、赤磐市でということじゃねんじゃな。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） はい、そのとおりでございます。

○委員（下山哲司君） 銭は国の銭でするんじゃな。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） はい。

○委員（下山哲司君） 結構です。

○委員長（北川勝義君） ちょっともう1個、もう1個じゃねえ、2つもあるんじゃけど、もう1個みんなで考えてもらわにゃあおえん。

総務部のくらし安全課のほうの消費生活のがあるでしょう。これ、はがきが来たりするんじや、65歳になったら来るんかなあ。

○くらし安全課長（岡本和典君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○くらし安全課長（岡本和典君） 75歳以上の方を対象に、このたびはがきを送付させていただきます。

○委員長（北川勝義君） 65歳で来とったで。

○くらし安全課長（岡本和典君） ごめんなさい、65歳です。

○委員長（北川勝義君） 僕に来とった、65歳じゃ、75歳じゃのうて。

○くらし安全課長（岡本和典君） 65歳以上です。申しわけありません。

○委員長（北川勝義君） じゃろう。

いやいや、僕が思うたのは、何を言ようというたら、僕に来とるけええとかあれじゃなしに、何じゃろうかなあと思うてはがきを見ようて、来とろう、そう思うて。あんな無駄なことの、議員とかわしらがしゃんとしとるとかそういう意味じゃでのうて、僕ら65歳で来るより、みんなじゃからもうちょっと、そういう金を使うんだったら広報紙1枚でも、広報紙へ折り込みを入れるか、広報紙のほうへ力を入れたほうが、皆勝手に広報は見ようらんと言うけど、僕はもう、はっきり言うてようけ新聞とりようんじゃ、農業新聞読みようるけど、今ごろ全然見んでも、必要ねんじゃねえかと思うんじゃけど、まあとってくれと言うけえとりよんじやけど、広報は必ず見るわけじゃ、議会だよりも。ようても悪うても。じゃけえ、広報は毎月出るんじゃけえ、議会だよりじゃねんじゃから、そのときに何回か、3回ぐれえでぱっと入れて、色の濃ゆう囲んでやるとかしたほうが見やすいんじゃねえか。はがき来たけえ、はがき来たたら、せえこそ何か金を払わにゃあおえんじゃろうかと、またいろいろ、何のことかなあというて僕らちょっとわからなんだんで、僕の感想を言よんかもしれんけど、必要なという人もおるかもしれんけど。何でそういうことを言うたら、今回が何ぼじゃったかな、数百万円がなったというのが。やっぱり、これ余りよろしゅうねえわなあと思うて。これは、じゃから何ぼかだ

まされたもんも出とろう、もっと。じゃけえ、ちょっと言うの、僕らもいろいろ被害に遭うて大変になっとなんじゃけど、被害というて個人的なことじゃけど。頼むほうとか、こういう、オレオレ詐欺じゃねえけど、言われようるもんは上手じゃけんなあ。金を貸してくれというもんは、もうどねえやってもおえん。教育長のところでも、金を貸してくれと言うたら教育長のところへ、土下座でもして10日も通うてみい、教育長、いやが応でも貸さにはあおえんならあ。払うときには、僕らもそうじゃけど、逃げられたりも、逃げとる人もおるし、払うときはどねえ言うたらというたら、貸してくれにはあええかったんじゃと言うて。もうぶち回しちゃうかという、手でも振らにはあおえんと思うたぐれえ、それをやっぱり、上手なというのがあるんで、やっぱりこれを、はがきだけ来たんじゃあ何かわからん、もっとちょっと、変なこと言うんじゃけど、赤磐警察署の中の、変わったんじゃけど、警察官が高瀬舟というのを皆出しよんじゃけど、皆、吉井が皆出してきょうる、小めえ、ガリ版で刷ったようなことじゃけど、イラスト描いていろいろやりようる、これ役かきよんじゃ。そこらがあるんで、そういうところへ入れりゃあ、広報のほうが見やすいというのがあって、これ勝手なことじゃけど、9月15日、敬老会を中村区でするんで、寸劇じゃねえけど、ちょっとしてくれ、詐欺でもやってくれえと。警察のほうには、そればあじゃおえんけえ、交通事故のこともやってくれというて、たまたまお願いして2つ、時間をとってくれというてお願いしとんじゃけど、やっぱり来てみんなが聞いてもろうたら、年寄りというのは、ちょっと言い方悪いけど、僕らもすぐなるんじゃけど、70歳過ぎたり75歳になったら忘れるが。じゃけど、毎月とは言わんけど、2カ月に1遍ぐれえ、広報紙の中へ何か挿絵でもちょっとあったら、何かだまされたんがようけあるみたいなのはおえんけど、だまされんようにしましようというのを出したら、ようなるんじゃねえかなあと思うて。はがきが決して悪いと言よんじゃねえよ。はがき来てびっくりして、何かせにはあおえんのかなあと思うて。詐欺に遭うたかと思うて。それがあんで、ぜひ、くどいぐらいしちゃうてくださいということを言いたかったんで、お願いしたいと思います。

それから、小中学校の今の学校教育課の学力調査のこれ、ノボリさんかな、あの人が入れてくれているのを見ても、あれのがようわかるなあ。課長、大変言い方悪いのがなあ、こう横に書いて、今度は縦で、わかるかなあ、この表自体が。できたら縦に書いてするんじゃったら縦にしてほしいし、横にするなら横にしてほしいと思うて。ノボリさん、あれはようわかった。こねえきれえじゃねえけど、見ようて、おおと思うて、うちの嫁さんと一緒に見ようて、ようわかるなあと思うて納得したんじゃ。じゃけえ、書き方も、そのくらいぐれえ、ちいたああんたらわかれと言わにはあおえんけど、わかりにくいんで、ここへおるもんもたかだか知れたもんばあじゃから、あんたらみてえにプロパーじゃねんで、ちょっとわかりやすうしてくれたほうがええかなあと思うて。

それで、ぜひ、ここの中で言うたら何か、こういうことを言うたらおえんけど、2つあるんです。各小中学校単位で出とりますわな、小中学校でどういうことが起きたというのは。それ

を公表せえとは言わんのじゃけど、悪いとこを公表せえ言よんじゃねえよ。できたら、これが一番になつるとこもしちやりゃあえんじゃけど、例えば言うたら、こうこうこれが全部小学校とすらあな、こんだけが、こけえおる議員が。そしたら大口さんが1番になったとしますが、点数で90点じゃったと。あとは85点じゃとかこうなつたとして。そしたら90点とか、例えば大口小学校じゃというて表彰しちやりゃあええと思うんよ、例えばの話が。それから、実盛さんというのが前は30点ほどしかようたらんのに、今度はぼっけえ、3年後には50点とれるような学校になつたんじゃ。ならんと思うけど、なつたとするで。そうしたら、そこやこうは、そしたら佐藤さんは80点じゃから85点しかならんけえ幅が少ねえわけじゃ。ここの下山さんでも60点のところ69点になって、9点しかない。実盛さんは30点が60点じゃというたら、30点も上がったようなとこじゃけん、そういうとこを感謝状でも何でもええけん、何かしちやりゃあおもしれんかなあと思うて。花いっぱいじゃねんじゃけど、何か勉強を頑張ろうという意欲。

○委員（下山哲司君） 委員長、それは前に答弁しとるで。

○委員長（北川勝義君） それを一遍してくれりゃあえんじゃねえかなあと思うてな。頑張りようる、悪いとこのどこを出せと言よんじゃねんで、全部、大口さんとかどこ、実盛、北川とか何ぼじゃというのをいせというのじゃのうて。

○委員（下山哲司君） 前の答弁覚えてるじゃろうか。

○委員長（北川勝義君） 覚えてなからう。ちょっとそういうことを考えてもらいてえなと思うんじゃ。どんなでしようかな。

それから、書き方はちょっと、ノボリさんののを参考にしてみちやって、ええと思うて、僕は。ほかの人は知らん、僕はええと思うとんじゃ。

○学校教育課長（家森康彰君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○学校教育課長（家森康彰君） 見やすい資料というのは、またこれから考えていきたいと思っています。

成績のよい学校、今いい成績、いい点数を出している学校について、表彰するということは、これから検討課題があるとは思うんですけども、その情報、点数が上がっている学校、またもう少し分析して、子供自体が授業がおもしろいと思っている学校、それからわかりやすいと思っている学校、それから家庭での学習時間が延びている学校というのをピックアップして、それぞれの各学校の学力向上担当者研修会が夏休みの終わりにありますので、その中で情報共有をしながら、どういう取り組みが効果を出しているのかという情報交換はことしも行う予定にしています。

○委員長（北川勝義君） 何で言ようるというたら、僕は思いがあって、思い出したから言よんで、これ聞きようて。別に何もせんでもええ、どっか行つとつたら帰ってこなんだりして、

3日も4日もようけ休んだりしょうたんじゃ、僕は、帰れなんだりしたら。そしたら、テストをしても、何かええぼっけえ前田副市长、褒められよんじゃ。それで川島さんは褒められんのんじゃ。どうしてかなあと思うて、点数川島さんのがはるかに上のにと思うたら、ぼっけえここが伸びたんじゃというて。50点が80点になったというて。100点ぐれえいきょうるもんが言われずに、物すげえ。おい、どうしてなあというて聞いたら、そうかというて言うたら、やっぱり励みになる。本人はそねえなことはねんじゃというて言ようるけど、物すごう励みになるんじゃ。じゃけえ、その学校自体もなるし、やる気が、勉強時間延びたでも何でもええんじゃけど、ちょっとそういうなんもいろいろ考えてもらいてえなあと思うたんで、今言うたん。

それから、今後検討しちやるというて言われたんで、できたらこういう、本気でこれを取り組むんじゃったら、きょうにと言よんじゃねんで、話の中の案として。教育長、もしするんじゃったらこういう、学校の経験者じゃったとか、塾の経験者じゃったとかやられようて、こういう、学力向上に熱心な、関心を持った人じゃな、そういうなん、例えばで言うたらスクールカウンセラーとかいろいろありますが、そういう新しいのを何かつくって、学力向上、わからんのんよ、何か言ようることが、そういう民間の人でも出て教えてくれようるが、今学校行きようるの、そういうなんを何かつくったら、金が要ることとか組織も要るんかもしれんけど、みんなも率先してくれるんじゃねえかなあと思はうたん。どうこうせえというんじゃねんじゃけど、そういうことも考えていただきてえなあと思うて。伸ばす気があるんじゃたらと思うて。それが一遍軌道に乗ったら放ってえても今度はやっていくと思うんじゃ。そこんところが何かやっただきでえなあと思ひました。お答えいただけりゃあいただいてもええし、おえなんだからよろしい。

課長。

○学校教育課長（家森康彰君） 学力テストの結果を見るときに、前年度の同じ学年、中学3年生と中学3年生を比べるということと一緒に、必ず経年比較で、去年の中学2年生がことし中学3年生になって、どれぐらい伸びたかというのをいつも見えています。

○委員長（北川勝義君） いや、僕なあ、何でも言ようるというたらなあ。中学校の校長しょうたとか小学校のした人と話しようて、教えようる授業も赤磐だけじゃのうて、動いとるから、話をしたら、それも見せてあげたんじゃ、コピー焼いて。そしたら、おもしれえなあ、でええするんじゃなあと言う人もおって、赤磐へ勤務しょうた人は、ああこれ知つとりますというてこの人の名前出て、そういうなんでもしていきようたら、何か前向きにとられるというんか、何時に寝てから何時に起きるというて、何もせんでも早う起きる、時間どおりしょうたら学習時間とかテレビ見る時間でもいろいろきちっとできるんじゃねえかなあという、テレビ見んから勉強できるか、見ようてもできるもんもあるんじゃけど、ちょっとそういう努力もええんかなあと思うて。今後また教育長、そういうことも考えてください、いろいろ。

それから次にもう1個、教育委員会のニュージーランドのこれちょっと、僕の聞き間違いじ

やったら土井さんにあれするんじゃないけど、何かここでよかって、今度はメダルがとれるように事前キャンプもしてホッケーも来てえからというて、代表になったら来れるように、そう聞いたんじゃないけど、もう決まったのかな。代表になったら来るというて決まっとんかな。そういうふうな言い方をされたと思うんじゃないけど、どんなですか。

土井課長。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） ニュージーランドの代表チームの方が帰るときに、来年オリンピック出場決まったらぜひ赤磐でお世話になりたいという意向は示していただきました。

○委員長（北川勝義君） いや、それは選手が言うたり関係者が言うたり、決まったわけじゃねんじゃないろう。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） まだオリンピック出場が決まってないんで……。

○委員長（北川勝義君） じゃあ、オリンピック出場が決まったら、ほんなら必ず来るんか。そこを言ようるわけ、僕は。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 今のところは、チームとしては来たいという意思……。

○委員長（北川勝義君） いや、チームが来るんかなということと言ようる。来たいとかという観測で、行きたいとか行きます、これが個人的に、僕らも今のままで来たら、オリンピックへ出れるようになったら事前合宿してくれるんじゃないろうなどは、していただきたいとは思ってる。しかしながら、もう2年、これでできた。これがじゃけえ、あんたらの教育委員会と考え方が全く僕とは違うんじゃない。僕は今回の、きのうの議員研修もあの黒いシャツを着ていこうと思った。何ぼにも暑いからというてやっぱり着ていかなんだ、本来の話をして。あれ、議長も言ようられるし、皆言う。できたらあれのときに、迎えるときにというて言われたりいろいろなこと、局長も覚えとるわな。そういう話をしてずっと来たんじゃないけん。僕が思よんのは、何が言いてえというたら、よそを見ても全部、旗でももうちょっとちょっと旗が何か、ようわけわからんなあと、関心持つとるもんは今回のをわかりようる。じゃけど今度、ずっと消防の周りぐれえから熊山の駅じゃねえけど、山陽、どこでもええ、山陽の入り口でも、ばあっと旗でもつくったり、ええこと言うたら看板でもつくって誘致じゃと言うたら、物すげえ来やすうなるんじゃないねえかと思うて。それで、それをするのは今が一番大事なんじゃないねえかと。帰られたけどな。またこれからも会うんじゃないから、大事なんじゃないねえかと。それをしてくれようるけん、やはり岡山の赤磐へ行ってえというて来てくれるんじゃないねえか、施設もあって歓迎もあったりするからという、今回のこともえかったからしてほしいと言うたら、いやいや予算はあるんです、よろしいですと言うけえ、予算今のところ、そうじゃねえ、補正でもしてやりんせえとこう言うて、7月も言うたはずじゃ。それが今聞きようたら、課長が言うたら、もうほぼ

向こう出場決まったら来ますというて。ほうと言うて。実盛さんや北川や、ここへおる関係ねえもんが何か言うたならえんじゃけど、課長が委員会でそうなとるぐれえ言われたら、ちょっと僕、ちょっとおかしげな話になって、決定になって、もし来なんだときに、誰がどねえ言よんなあ、どうするんなら、どうなるんなあということになるからと思うてあえて言よんよ。確認が。ちょっとそこんところがわかりゃあ、教育次長でも誰かちょっと説明願いますわ。

○教育次長（藤井和彦君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 教育次長。

○教育次長（藤井和彦君） ニュージーランドチームにつきましては、9月にオセアニア大会があります。そこで決まればオリンピック出場が決まるわけですけども、オリンピック出場が決まったからといって赤磐市に来るといのが確約されている状況にはありません。今後、誘致活動をさらに進めまして、ぜひ来年直前キャンプに来ていただけるように、皆様と協力しながら推進していきたいと思っております。

以上です。

○委員長（北川勝義君） 僕はそう言ってくれるんじやったらええ。そうじゃなかったら、もう次から来年度の予算にオリンピックの誘致の何とかというような予算を上げたらいけんよ。事前キャンプの、もう決定してきとんじや、事前キャンプの予算だけ上げりゃあえんじやけえ、する予算で。わかるか、言ようこと。誘致の予算を上げたらいけんで。じゃけどやっぱり、それも上げるんじやろう、4月には絶対、何ぼかついとろう、予算が。行かにはあ、向こうへ訪問してこにゃあおえんかもしれん、何かしちらにゃあおえん。遠征の旅費をしちやるとか、例えばの話が、やっぱりちょっと考えてもらいてえなと思うたんよ。土井さんには悪いけど、そう思うたんで。

せえで、大変申しわけねんじやけど、もうちょい大きいのをすりゃあえかったなあ、見えりゃあへんなあ、これも。ええなあと思うたんが。それで批判じゃねえんじやけど、ほんまに旗のことがいろいろ言ようられて、通りようて。あれかなと言うて、花火のときに通りようたら、あれかなと言うけん、あれかなというて偉そう言うないうて言うたけども、やっぱりわからんわけじや。あの上のとくぐれえじやったら。じゃから、やっぱりもっとわかるようにしてもらいてえと思う。

それからもう1点は、この新聞の切り抜きもあるんじやけど、何人ぐれえ来られたんか、試合のとき。試合があつたが、さくらジャパンとしたという。その報告を、わからなんだらえんじやけど、わかつたら教えてください。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） それでは、キャンプ期間中に来た人数を申し上げさせていただきます。

まず、8月5日の歓迎式のときが700人、あと8月8日のさくらジャパンのときには700人、あと8月9日の再試合のときが600人で、練習期間中全部合わせますと、延べ約2,500の方が……。

○委員長（北川勝義君） もう一遍言うてん。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 8月9日が600人です。

○委員長（北川勝義君） 違う、8月8日、順番に言うてくれえ。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 濟いません、ほんなら8月5日が700人、6日が100人……。

○委員長（北川勝義君） 6日、8月6日。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） はい。

○委員長（北川勝義君） 8日じゃねんか、6日か。8日言うたら、さっき。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） さくらジャパンのときの8月8日は700人です。

○委員長（北川勝義君） 8月5日が。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 8月5日は700人。

○委員長（北川勝義君） 8月5日は700人じゃろう、次が8月8日言うたらろう。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 8日、さくらジャパンのときが700人で、9日の再試合のときに600人。

○委員長（北川勝義君） せえで。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） で、全体の練習を通じては延べ2,500人。

○委員長（北川勝義君） それここへ書いとる。期間中応援サポートに2,500人、それ、ようわけわからん。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） はい。

○委員長（北川勝義君） わかりました。

これは、評価すりゃあええんか。2,500人がどんなんということよ。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 当初の予定では、2,020人のサポーターということでお願いしとったと思うんで、全体を通じてなら。

○委員長（北川勝義君） もうよろしい、わかりました。

僕は何が言いたかったというたら、これが一過性で、ここのだけで終わってくるという話じゃのうて、やっぱり赤磐市の中へ、熊山だけに来るんかと、ホッケー。例えば顕彰幕立てるんじゃねえけど、例えば吉井のどこでもええし、どこでもええ、山陽じゃって一番多いところへ、この市役所はもちろんの話じゃけど、やっぱりそういう活動をしてほしいなというのを言いたかったんで、大きい看板までつくれ、看板も必要じゃねえかと思うんじゃ、ポスターで

も、誰かおるが、議員さんが、雨にぬれてもいいポスターようけ大きいのがかかるとる、そういうポスターつくって、各地区へ、吉井地区じゃったら30枚とか、熊山は多いけんもっとじゃけえ、100枚とか、山陽も100枚、赤坂にも50枚とかという、こう配って張ってもらえるところへ張ったら大分ようなるんじゃねえかなあと思うとんで、金が要らんじゃのうて、土井課長、要らん要らん言わずに、よう金は後から来なんたら困るんで、ちょっとしときましようやと思うたんですわ。それはまた、今後のことがあるので考えてください。

私のほうは以上です。

大口委員。

○委員（大口浩志君） 学力調査の関連ということでお尋ねするんですけど、たしかテストのあり方が大きく変わるんですよね、来年度から。というのが、例えば算数で言えば我々、ここにおられる人の年代は、最後のほうに文章題があって答えるようなイメージのテストを今まではやっとならしたと思うんですけど、もう文章を読んで何を問われとるかを判断して、それから計算というようなテストの形式になるようなことを、ざっくりとですよ、というふうにならなっていくというふうなことをお聞きしとんでんですけど、まず何を問いとして問われとるかがわからんことには答えれんので、国語力がより大事になるんじゃねんかというようなことをお聞きもしたりするんですけど。それに向けて、赤磐市では今後、きょう言える範囲でもしあれば結構ですけど、腹案のようなものが、それに向けてどういう指導を行っていくとか、こういうアレンジをしていくとかというようなものを多分検討されとんじやないんかと思うんですけど、もし御披露いただける範囲があれば教えてください。

○学校教育課長（家森康彰君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○学校教育課長（家森康彰君） 学力・学習状況調査のテストの形式は、ことしから既に文章中心に変わってきています。知識と活用力というのではなく、もう一括になって、長い文章を読んで、そこから式を導き出す、さらに、どうしてその式を立てたのかというのを説明する、そのような様式に変わってきています。

先ほど今言ってくださったように、文章を読む力というのがとても大事になってきます。各学校では本を読むことにすごく力を入れている学校もあります。それを、教育委員会でもとても進めてくださいという話をしてはいますが、それプラス、今授業の中で話し合うこと、話し合い活動、学び合うこと、わからないことがあったら人に聞いて、それを教えてもらうという、話し合う、学び合う、そこに力を入れた授業を展開するように、今進めているところです。それが今の段階で進めているところです。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

ちょっと1個忘れとった。今の公共交通のことじゃけど、きのう会議が、きのうテレビが、おとついやりようたんかな、大森市長がやりようたんが、あれをやりようたろう、路線の見直

しもかけたりして、それでまた行かなんだら高齢者というんか、交通弱者に助成しようかというような話が出ようりましたが。じゃから、これも逆にそういうところ、今さっき言うた話、全体考えて公共交通の見直し全体かけるんじゃないたら、今ネオポリスとか山陽団地がのうなつたとこの便やこう、ほかに新しゅうできるとこの便も仮に、そしたら高齢者とか所得税非課税世帯の家とか、例えば助成して、このバスに乗ってくれば何割、半分でも出しますよというのをしたら、促進にもなるんじゃないか、乗車の。そういうことも考えて、そうして乗車がよけりゃあ、ほんならまた今おる民間会社もやっちゃろうか、もう一遍というて言われるんじゃないかああと、僕はええように希望を思よんで。こういうことも今後あったら考えてください。要らんこと言うときます。

もう1個言うところ。映画祭りでするのはわかったんじゃないけど、時期も言ようたんじゃけど、新しい映画やこうはせんんじゃないなあ。映画祭りだけで。新しい映画すりゃあええのになあと思うて。赤磐市もようけ売れた、売れんは別で、芸能人もおったりするんで、やったらおもしれえかなあと思いましたんで。よろしいです。

他にありませんか。

○委員（永徳省二君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 永徳委員。

○委員（永徳省二君） 教育委員会資料の6ページ、3の(5)番、支出決済額というところで、赤磐市の分担金が全体の6.1%、それから7ページの同じく6番の(4)番、予算のほうが全体の6.1%ということなんで、これの基準、根拠を教えてください。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 日本遺産の認定の件数を案分しております。で、6.1%ということで、4市で28件の件数がありまして、そのうち3件が赤磐市で、その案分をして6.1%ということで決定しております。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

なければ、1番の事業の進捗状況については終わります。

続きまして、その他に入りたいと思います。

執行部のほうからその他の説明をしていただきたいと思います。

○政策推進課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○政策推進課長（花谷晋一君） 総合政策部の資料を御準備ください。

政策推進課より、令和元年9月議会定例会提出予定議案について御説明させていただきます。

資料は5ページをごらんください。

提出予定議案は2つございます。

まず、(1)新市建設計画の変更について御説明申し上げます。

東日本大震災や熊本地震等の大規模災害の影響によりまして、平成30年に施行された法律によりまして、合併特例債の発行期間を15年間から20年間にすることが可能となりました。その条件として、新市建設計画の期間を延長する必要があるため、計画を変更するものでございます。

続きまして、(2)令和元年度一般会計補正予算（第2号）についてでございます。

本年度末で契約の終了する広域路線バス赤磐・和気線と市民バス笹岡線、北佐古田線の委託期間を延長したいので、それぞれ債務負担行為を追加させていただくものです。

政策推進課からは以上です。

以上で総合政策部の説明を終わります。

○くらし安全課長（岡本和典君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○くらし安全課長（岡本和典君） くらし安全課から報告をさせていただきます。

消費生活センターの相談状況及び特殊詐欺の被害についてでございます。

資料の1ページをごらんください。

消費生活センターの相談件数につきましては、平成29年のセンター設置以来、相談件数が飛躍的に増加しております。昨年度の主な相談内容としましては、架空請求のはがき、メール等に関する相談、これが522件のうち200件以上ございました。

(3)といたしまして、特殊詐欺の被害についてでございます。

令和元年7月13日土曜日に山陽団地と桜が丘地域におきまして特殊詐欺の被害が発生しております。赤磐警察署の生活安全課の職員をかたりまして、キャッシュカード等を交換する形で暗証番号を聞き出して、数百万円の被害が実際、赤磐市の山陽団地、桜が丘で発生しております。

もう1点、資料に載せておりませんが、先般の、先週の台風10号の状況について御報告をさせていただきます。

8月15日から16日にかけて台風10号が中国地方を縦断いたしました。8月15日に1時8分に岡山県下に暴風警報が発令されたことを受けまして、1時30分に赤磐市として警戒体制をとっております。その後、警報が発令されるという見込みがあったことから、8月15日の12時5分、赤磐市全域に避難準備、高齢者等の避難開始の情報を発令させていただきました。その後、安全性が確保されるであろうということで、同日の17時30分をもちまして避難準備・高齢者等避難開始の情報について解除をさせていただいております。

この避難の情報によりまして、山陽ふれあい公園に6名の方が避難をされております。

○委員長（北川勝義君） 腰を折るようなけど、どこがするんか。ふれあい公園やこうへ避難

して。ふれあい公園はどこら辺の人が避難するんか。

○くらし安全課長（岡本和典君） この6名の方につきましては、正崎と尾谷の方が避難をされております。

○委員長（北川勝義君） 正崎のコミュニティじゃったらわかる、それじゃったらようわかる。

○くらし安全課長（岡本和典君） 降り始めから降り終わりまでの雨量につきましては、町苅田で66ミリ、周匝で74ミリ。水位につきましては、砂川の正崎、吉井川の周匝ともに8月15日の12時から翌16日の3時までの間で35センチ上昇しております。大きな上昇ではなかったということで、被害のほう少なくて済んでおります。

もう1点、資料がなくて申しわけありません。

8月に入りまして、赤磐市内におきまして2件の死亡事故が発生しております。8月9日午後8時5分には松木で、8月12日午後11時30分には河本で、いずれも横断中の歩行者が乗用車にはねられて亡くなるという痛ましい事故が発生しております。

これを受けまして、赤磐警察署と赤磐市とで協力をいたしまして、交通死亡事故対策のLSA作戦ということで、夜光反射材、速度の取り締まりから事故防止ということ掲げまして、この頭文字をとってLSA作戦ということで、昨日17時30分から本庁の玄関前で出発式を行いまして、その後マルナカ等で啓発を行っております。今後、引き続き警察署、市役所のほうでも交通事故防止の啓発を順次行ってまいりたいと思います。

以上です。

○財政課長（和田美紀子君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○財政課長（和田美紀子君） それでは、財政課から、まず財務部資料の(1)令和元年度赤磐市一般会計予算（第2号）について御説明いたしますので、1ページをごらんください。

まず、歳入ですが1行目、地方特例交付金、こちらは国の交付額決定に伴う減額でございます。その下の地方交付税のうち、普通交付税についても、国の交付額決定に伴うこちらは増額。それから、財政調整基金繰入金、これは補正予算全体の財源調整によるものです。こちらは減額を約1億5,000万円しております。それから、臨時財政対策債、これも普通交付税の決定とともに交付額が決定しますので、これに伴いまして減額の計上をしております。

それから、歳出につきましては、予備費になりますが、このたび決算による申告で、法人市民税の過年度還付に早急に対応する必要が生じたので、予備費からそれを充用してお支払いするというので、それに見合う金額1,400万円の増額をさせていただくということが、財政課担当の補正予算になります。

続きまして(2)平成30年度赤磐市の健全化判断比率について御説明します。

ちょっと向きが変わりますが、資料2ページから6ページまでになります。

まず、赤磐市健全化判断比率の状況というページです。2ページです。

左端のところに、①実質赤字比率、そこから下に行きまして、④の将来負担比率まで、この4つの健全化判断比率について、平成30年度及び29年度の状況を2ページにまとめておりますが、それぞれの数値を御確認いただく前に、次の3ページ、4ページのほうに一旦お進みいただきまして、この健全化判断比率について簡単に御説明をさせていただきます。

この健全化判断比率につきましては、地方公共団体の財政の健全化に関する法律、国の法律によりまして平成20年度から制度化されたもので、自治体が自主的に健全化への取り組みをすることを狙いとしております。つまり、財政破綻してから対応するということにならないよう、ページの中ほど、3ページの中ほどになりますが、ここにお示ししております国が決めた早期健全化基準という数値がございまして、この基準以上の場合、今度は上の枠を見ていただくんですが、3つ囲みがあるかと思えます。真ん中のところ、基準以上になりましたら自主的な改善努力により財政健全化を目指す早期健全化団体というものになりまして、さらに財政悪化が進みますと、右のほうに行きまして、今度は国が関与する財政再生団体というものになります。また、今度4ページ下の段には、この比率を計算するときに対象とする範囲を矢印で示しておりますが、この全体の数字のときには、下のほうを見ていただきますと、公営企業や一部事務組合や公社等の会計を含んで判断している数字ということで御理解いただけたらと思います。

では、2ページに戻っていただきまして、それでは赤磐市が財政健全化団体と判断されるという比率は、30年度の真ん中の列です。早期健全化基準の欄にお示ししております、財政再生団体になってしまうという比率はその隣、財政再生基準というところに、こちら国の基準を示しておりますが、左端が30年度の赤磐市の数値でして、30年度決算見込み値による各比率は①実質赤字比率が、これは横棒と表示します。括弧で入れている数字は後ほど御説明します。その次の連結実質赤字比率も横棒、それから③実質公債費比率が7.8、④将来負担比率が37.5という計算値になっております。結論といたしましては、今回国の基準値を超える比率はありませんでしたという御報告になります。

もう少し詳しく、5ページに行ってくださいまして、先ほど申し上げました比率の計算にどういった数値を使うかということをお示ししておりますので、ざっとごらんいただきたいと思いますんですが、まず①実質赤字比率でございます。これは、一般会計等における実質赤字額の標準財政規模に占める割合となっております、計算式としましては、一般会計と、赤磐市では竜天オートキャンプ場特別会計の実質収支額を分子としまして、標準財政規模を分母として計算しております。計算値は、実質収支が今年度は黒字でございますので、先ほどのように横棒で示すことが決まっておりますが、計算値としましてはマイナス8.55となっております。

そして、②連結実質赤字比率です。こちらには、先ほどの一般会計等に公営企業会計と特別会計を含めた会計を対象とした考え方でして、計算式としましては、それらの実質収支や余剰

金を足したものを分子として、同じく標準財政規模を分母として計算するということとなります。こちらも全て黒字でございますので横棒で示しておりますが、計算値は34.30という値になっております。

③実質公債費比率につきましては、公債費による財政負担の度合いを示す指標でございます。一般会計の地方債の元利償還額に特別会計の地方債の元利償還の財源として一般会計から繰り出した額、これを準元利償還金と言いますが、これらを含めた額の大きさを指標化しまして、資金繰りの危険度を示すという割合になっております。平成30年度の計算値は7.3となるのですが、3カ年平均で判断することとなっておりますので、7.8ということが報告値になります。

最後に、将来負担比率です。一般会計の借入金や将来支払う見込みの負担額等が将来財政を圧迫する可能性が高いかどうかを判断することになっております。先ほどの実質公債費比率が単年度の地方債の負担の重さを示しますが、こちらの将来負担比率は将来の負担の重さを残高から示しております。平成30年度の計算値は37.5%でしたが、2ページの表で比較して見ていただきますと、こちらが29年度の数値と比べますと、29年度が24.5%でございましたので、13.0%アップしております。この主な要因は、この数値を計算するときに用います将来の負担額から控除することができます充当可能基金額というのがございまして、こちらが今回減少したことによるという影響が大きいと分析しております。

このように、御報告した数字は全て現在基準値内ではございますが、決して楽観できる状況ではないと認識しておりますので、今後、一層将来にわたって健全な値を維持していくことが大切であると考えており、取り組んでまいりたいと考えております。

以上、健全化比率の説明とさせていただきます。

○管財課長（戸川邦彦君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○管財課長（戸川邦彦君） 管財課より、赤磐市土地開発公社の経営状況について報告させていただきます。

財務部資料の7ページからになります。

平成30年度の事業報告と決算について報告をさせていただきます。

まず、事業報告についてですが、資料のほうは9ページをごらんください。

1、事業の概要にありますとおり、平成30年度においては公社設立団体の赤磐市からの公社に対する要請がありませんでしたので、土地造成事業収益はありませんでした。

次に、決算についてですが、11ページの貸借対照表をごらんください。

資産の部ですが、流動資産中、現金及び預金が3,998万305円、この預金の内訳につきましては、定期預金が3,880万円、普通預金が118万305円となっております。完成土地がゼロ円で、資産合計は3,998万305円です。

負債はございません。資本の部についてですが、資本金が1,000万円、前期繰越準備金が2,993万6,085円、当期純利益が4万4,220円で、資本合計は3,998万305円となっています。

当該純利益の内訳についてですが、12ページの損益計算書をごらんください。

土地取引等がありませんでしたので、事業収益、事業原価はゼロ円となっています。3、販売費及び一般管理費の7万2,188円につきましては、預金の残高証明手数料が1,188円と、法人税が7万1,000円です。4の事業外収益11万6,408円は、定期預金と普通預金の預金利息でございます。事業外費用、特別損益はありませんので、当期純利益は11万6,408円の預金利息から一般管理費の7万2,188円を差し引きますと、4万4,220円となっています。

13ページのキャッシュ・フロー計算書については、御確認いただければと思います。

以上で財務部の報告を終わります。

○教育総務課長（安本典生君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 安本課長。

○教育総務課長（安本典生君） それでは、教育委員会資料をお願いいたします。

令和元年9月議会定例会提出予定議案につきまして、教育委員会からは条例改正と補正予算についてでございます。

まず、教育総務課から、1の赤磐市立幼稚園の保育料に関する条例の一部を改正する条例（案）についてでございます。

資料のほう、8ページをごらんください。

このたび、国の子ども・子育て支援法施行令の改正によりまして、市内の市立幼稚園の保育料の無償化を定めるため、赤磐市立幼稚園の保育料に関する条例の一部を改正をお願いするものでございます。この市の条例改正によりまして、令和元年10月1日から市内の市立幼稚園の月額保育料3,900円が無償となるものでございます。

濟いませんが、11ページのほうをごらんいただきたいと思います。

今回の幼稚園保育料の無償化の概要について御説明のほうさせていただきます。

参考資料につきましては、広報9月号に掲載予定のものでございます。

保育料の無償化につきましては、幼稚園の関係では10月から変更点が3点ございます。まず、先ほど御説明させていただきました、保育料の全員の無償化でございます。2点目につきましては、給食費の副食費につきまして、年収360万円未満の世帯と第3子以降の子供につきましては免除となります。また、3点目といたしまして、一時預かり保育を現在実施しておりますが、就労などの保育の必要性の認定事由に該当する場合は一定の範囲内で利用料を補助するものとなっております。

簡単ですが、幼稚園関係の無償化の内容について御説明のほうさせていただきました。

いま一度、資料8ページのほうへ戻っていただければと思います。

2といたしまして、令和元年度赤磐市一般会計補正予算（第2号）案についてございま

す。

まず、教育総務課から3件の事業について、歳入歳出の補正をお願いするものでございます。

まず1点目は、市内小中学校トイレ洋式化改修事業についてでございます。

トイレの洋式化につきましては、吉井中学校は平成30年度に整備が完了いたしまして、高陽中学校は今年度既に予算化をしております。今回の補正につきましては、残っております市内の小中学校12校、中学校3校のトイレ洋式化整備について国の交付金を要望していたところ、交付決定がございましたので、国の学校施設環境改善交付金と合わせまして、合併特例事業債を財源として市内の小中学校のトイレの洋式化改修整備をするものでございまして、事業予算につきましては2億5,760万円をお願いするものでございます。

続いて、2点目につきましては、8ページの下のところ③で表記しておりますが、過疎対策事業債についてでございます。現在外国語指導助手配置事業で外国人英語指導者の配置をしておりますが、その中で起債対象の事業費が増額になりましたので、歳入財源といたしまして50万円の増額をお願いするものでございます。

続きまして、9ページをお願いいたします。

3件目といたしまして、歳出の中ほどでございます②の幼稚園給食費負担事業についてでございます。国の幼児教育無償化に合わせまして、一部園児の給食費副食費減免に対する財源といたしまして、負担金131万7,000円の増額をお願いするものでございます。

教育総務課からは以上でございます。

○学校教育課長（家森康彰君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○学校教育課長（家森康彰君） 学校教育課から、1つお願いいたします。

9ページの中ほどをごらんください。

令和元年度岡山県オリンピック・パラリンピック教育推進事業、教育推進校に対する事業委託金の交付についてです。

岡山県では、オリンピック・パラリンピックへの国民の関心を高め、スポーツの価値や効果の再認識を図るとともに、規範意識の涵養、国際異文化理解、共生社会への理解等を深めるために、県内12校の推進校として事業を進めています。赤磐市では、オリンピックホストタウンでもあり、またニュージーランド女子ホッケーチームの事前キャンプが行われていますところから、赤磐市の磐梨中学校をオリンピック・パラリンピック教育推進校として、県から委託金15万円をいただいで行う事業です。

事業の内容としては、8月に既に済んでいますが、ニュージーランド代表の歓迎会または試合の応援、そして12月にはオリンピック出場経験のあるホッケー選手による講話、またホッケー教室の開催を計画しています。2月にはワークショップに参加し、その実践を発表します。

支出としては、講師謝金、12月に行われます講演会の講話の講師謝金として10万円、その講師の旅費、東京からお招きすることになると思いますので、その金額として3万7,000円、そして消耗品費、歓迎や、またワークショップで使う写真用紙、マジック代等で1万3,000円を計上するものであります。よろしくをお願いします。

学校教育課からは以上です。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○社会教育課長兼スポーツ振興課長（土井道夫君） それでは、社会教育課のほうから補正につきまして説明させていただきますので、資料の10ページをごらんください。

この補正につきましては、岡山県地域課題解決支援プロジェクト協議会補助金を活用いたしまして、竜天天文台の天文・星空資源の活用による誘客促進を行うための補助対象経費に伴う県補助金の増額でございます。

歳入といたしましては、県の補助金のほう30万円いただきまして、それに伴う歳出といたしまして、竜天天文台の天文・星空資源の活用による誘客活動を行うための事業費、備品購入費合わせて30万円を支出予定するものでございます。

以上、教育委員会から説明させていただきました。

○消防本部消防総務課長（檜原秀幸君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○消防本部消防総務課長（檜原秀幸君） 令和元年9月議会定例会提出予定議案について説明をさせていただきます。

まず、赤磐市手数料条例の一部改正についてでございます。

消費税増税に伴い、地方公共団体の手数料の標準に関する政令の見直しが行われ、消防法関係の危険物施設で浮屋根式特定屋外貯蔵所等の許可申請に対する審査手数料が一部改正されたことにより、本条例の一部を改正するものでございます。

続きまして、令和元年度赤磐市一般会計補正予算（第2号）についてでございます。

歳入でございます。コミュニティ助成事業助成金70万円につきましては、一般財団法人自治総合センターが宝くじの受託事業収入を財源といたしまして実施しているコミュニティ助成事業に、赤磐市少年女性防火委員会への活動支援としまして、幼年・少年消防クラブ員の育成に係る防火訓練用備品の整備に関する助成が採択されましたので、歳入の補正をお願いするものでございます。

次に、消防団員安全装備品整備等助成金19万8,000円についてでございます。消防団員の公務災害防止のため、市町村が行う安全装備品整備事業に対し、消防団員等公務災害補償等共済基金が助成する事業で、無線機20基の整備に関する助成が採択されたため、歳入の補正をお願いするものでございます。

歳入は以上でございます。

歳出につきましては、先ほどのコミュニティ助成事業70万円と、消防団員安全装備品整備等助成金19万8,000円の事業でございます。内訳は、歳入で説明のとおりでございます。

続きまして、資料にはございませんが、第48回中国地区消防救助技術指導会の結果報告でございます。

ロープ応用登はんと匍匐救出の各1組が8月25日日曜日に行われます救助全国大会に出場いたします。地方大会を勝ち抜いた726本部、約1,000人の救助隊員が集結し競技が行われます。岡山初の全国大会をぜひごらんいただけたらと思います。

以上、簡単でございますが説明とさせていただきます。

○委員長（北川勝義君） 執行部のほうから説明が終わりました。

委員の皆さん、何か質問がありましたらお願いします。

○委員（大口浩志君） よろしいか。

○委員長（北川勝義君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） この詐欺の件でちょっと聞いてみるんですけど、赤磐警察署を名乗ったというように書いてあるんですけど、名前までええんですよ、実際に実在する方の名前を名乗られたんですかね。

○くらし安全課長（岡本和典君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○くらし安全課長（岡本和典君） 申しわけありません。個人の警察官のお名前ということですよね。生活安全課の何々ですということで名乗られたということまでしかお聞きしておりません、申しわけありません。

○委員（大口浩志君） だから、実際例えば岡本さんという警察官がおって、その人の名前をかたっとられるんか、完全にあさってのほうの名前なんかというふうにわかったらということですか。

ほかによろしいか。

○委員長（北川勝義君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） 今工事が進んどられると思うんですけど、学校等のエアコン工事はほぼ終わったように思っただけいいんですかね。

○教育総務課長（安本典生君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○教育総務課長（安本典生君） 2学期からは学校のほうで使っていただけるよう、今調整等準備のほうしております。

○委員長（北川勝義君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） もう終わったかどうかだけで結構です。

○教育総務課長（安本典生君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 安本課長。

○教育総務課長（安本典生君） 工事についてはほぼ完了しておりますが、一部については調整等まだしているところもございます。2学期からは使っていただけるような状態にはなりません。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○委員（大口浩志君） もう1個、済いません。

○委員長（北川勝義君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） 財政のどこなんですけど、資料で3ページ。最後に課長が楽観できるような状況ではないというふうなことをおっしゃられて、大体そういう話はずっと聞いとんですけど、例えば3ページに財政健全というところから、財政悪化というて真っ黒になつとる矢印が右左に行ってますけど、仮に健全財政がゼロポイントで悪化のほうで仮に100ポイントだとすれば、今赤磐市はどの辺におると思うとけばいいんでしょうか。もしそれが答えにくいんであれば、仮に29年度が50ポイントのところにおいて、30年度はどっちへ振ったかというのがあれば教えていただけたら。

○財政課長（和田美紀子君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○財政課長（和田美紀子君） そうですね、ポイントでお答えするのは、ちょっと個人的な感覚になってしまうので難しいのですが、そのときの考える指標としましては、県の平均ですとか国の平均値というので私たちも判断しているということがございます。平成29年度、③の数字でしたら岡山県内の15市の平均が7.9ですので平均並み、将来負担比率、④のほうは同じく29年度が32.2ということになっておりますので、これと比較しますと、点数で言うたらほぼ平均点のところを行っている。実質公債費比率の25.0、③の数字のほうですね、これが25.0を超えるとだめなわけなんですけど、それとの差で考えても、今のところはまだ大分ありますので、ポイントで言ったら真ん中辺と。少しこしは悪くなる方向に矢印としては進んでしまったというふうに捉えて、気を引き締めたいという考えでおります。よろしいでしょうか。

○委員（大口浩志君） はい。

○委員長（北川勝義君） 大口委員。

○委員（大口浩志君） なかなか答えにくいことを聞いとるようには自分も思っとんですけど、目安として、例えば終末時計のようなものもあったりするじゃないですか。12時まで行ったらもう地球が終わるとか、それが進んだとか、戻ったとかという表現のようなことができるほうが、市民の方々から問われたときに、金がねえんじゃ、金がねえんじゃというてすぐ言われるというようなことは、いろんなところでよく聞く話なんですけど、具体的にどういうふうなところにあるんかというのが、もしわかりやすい表現方法等があれば、今後御検討をいただ

けたらと思います。

○委員長（北川勝義君） 他にありませんか。

○副委員長（佐藤 武君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 佐藤委員。

○副委員長（佐藤 武君） まず、地方特例交付金、減額なんですけれど、減額理由はどのような理由でしょうか。

それから、財政健全化の質問も出たんですけれども、合併特例債、新市建設計画が5年間延びたということで、17年度から令和6年度までということで期間が延びたんですけれども、この延びたことによって、実質公債費比率とかの影響はないのかどうかということをお教えください。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○財政課長（和田美紀子君） 地方特例交付金の額につきましては、この中の内訳になるんですが、個人住民税減収補填分ですとか自動車税減少補填分という計算値、こちらにつきまして、昨年度の実績で確定したものが県より通知をされてくるということで、これが前年度実績や予算を立てるときの県からの通知、こちらで予測していた数値の予算額、こちらより少し下回ってしまったということが説明になります。

それから、合併特例債の5年間延びたということがことしの数値に直接は影響はしておりません。ただ、この計算をしていくには、起債の残高が高くなれば悪い方向に進むという性質の計算になりますので、貯金とのバランスを見ながら今後、合併特例債を使うときには慎重に検討していかないと、この数値、健全化の数値というのは悪い方向に動いてしまうという御理解をいただければと思います。

以上です。

○副委員長（佐藤 武君） はい。

○委員長（北川勝義君） 佐藤委員。

○副委員長（佐藤 武君） じゃあ、ちょっと違う問題でお尋ねします。

基本的な部分なんですけれども、幼稚園の保育料無償化ということで、この数字が10月1日から保育料3,900円が無償となりますという説明なんですけれども、具体的に無償化の対象人数というのはどれくらいなのか。それから、無償化に伴って国からの赤磐市の収入が当然…

…。

○委員長（北川勝義君） それは……。

○副委員長（佐藤 武君） 本番、じゃあ本番でお尋ねしますので。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 今の幼稚園と保育園、認定こども園、この関係で、幼稚園へ行きよう人は料金が少のうて行きようたという考え方があるんじゃないかと思うんじゃないか、基本的には。じゃ

けど、無料になったら、同じ無料なら保育所へ預けたほうがいいという考えになったら、幼稚園のほうは、実質的に子供が行かんようになるんじゃないかねえか。前からそういう懸念は持ってたんじゃないけど、もうこれ決定した以上はそういうことが実際に起きるんじゃないかねえかというふうに思うんですが、その辺はどうなりますか。

○教育総務課長（安本典生君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○教育総務課長（安本典生君） 今、御懸念いただいている件でございますが、幼稚園、保育園に入れる基準がございます。幼稚園であれば保護者の方が御家庭で子供さんを見れる状況にある状態で幼稚園へ行っていただくんですけど、保育園となれば就労とかそういうような理由で預けれない方が保育園へ預ける、御家庭で……。

○委員長（北川勝義君） 違う、そういうような答えしようたらおえん。要するに下山さんが言よんのは、何を聞きようというたら、幼稚園は、例えば授業料というんで、例えば副食費が4,000円じゃ、保育料は保育所によって違うから、5,000円、6,000円かかりようたと。預かる時間も違うわな、1時までと、4時までと、例えばの話で言うたら。そしたら同じように要らんようになったら、みんな保育所へ行きとうなるんじゃないかねえかと言うたんじゃないけど、今、安本課長の言よる答えは僕はわかるんじゃないけど、下山さんはその言よることじゃねえ、要するに、早い話が保育に欠けとるか欠けてねえかだけのことじゃけえ、保育に欠けとる就学前の教育するのは幼稚園じゃけえ、そりゃあ保育に欠けんでも行きゃあええわけじゃ。保育に欠けとるもんが行けれん、見るもんがおらんから行けれんというのを、いわゆる共稼ぎとかひとり親とか例えばあるけど、そういうとこじゃから、そこだけわかってもらやあええが、そこじゃけど、下山さんもある程度わかって聞きようることじゃから。

○委員（下山哲司君） いやいや。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） それはわかって聞きよんじゃ、聞きよんじゃけど、おばあさんが仮に家へおって、そしたら両親は働きようて、当てはまるわけなんじゃけど、安いから。

○委員長（北川勝義君） 当てはまらん、おばあさんがおったら行けれんて、保育園には。

○委員（下山哲司君） おるといのが、同じ家におらんんだらええんじゃ。

○委員長（北川勝義君） そりゃあ、同じ家じゃなかったら。生計の……。

○委員（下山哲司君） そりゃあ、山陽団地におばあさんがおって、若え夫婦は桜が丘おったら見にだけ行くんじゃないから。それで入ったら実質的にはオーケーなんじゃから。そういうことがずっとなったらやっぱりそういうことになっていく可能性のほうが多ゆうなるから。対象者が全部そうじゃねんじゃもん。幼稚園行きようる対象者が全部そうじゃない。安いから行かしようるといのもあるんじゃないから。だから、実質的にこっちに回る方が多ゆうなるんじゃないかという。そしたら今でも幼稚園は少ないじゃろう、どっこも。どっこも少のうなっとなるじゃろ

う。まだ少のうなるんじゃないかという。

○委員長（北川勝義君） まあその話もええけど。

○委員（下山哲司君） 現在じゃあ答えれん言うたらもうそれでええんじゃけん。

○委員長（北川勝義君） 違う違う、そういう問題じゃのうて、どっこもあって、吉井の場合は幼・保一元化で幼稚園と保育所が分かれたのを幼稚園にしない、保育園にしますということになったわけ。そしたら保育料も高えが、例えばの話をされて。それから、赤坂も今、認定こども園というような扱いになったが。認定幼稚園じゃねえけど、こども園になってしとるが。やっぱりそういうやり方があるんで、山陽にはねえ場合もあるし、私立が。そこらのとこは、これから総合的に学校教育で幼・保一元化で考えていかにやあおえんことにつながっていくじゃけど、下山さんの言う、金で行きよるだけじゃのうていろいろあるし、なかなか預かってもらえんのもあるし、そこらのとこはちょっと今後検討してもらわにやあ、一概にこの委員会でどうこう言うて、云々言うて簡単にできにくいと思うけん。ただ世帯分離しとるけんええというて、例えばの話が、もっと厳しいこと言うたら、1軒の敷地内へおって、吉井ぐれえが長屋と本宅があるぐれえで世帯分離してもあるわけじゃ、そういうなんちよっと、余りよろしゅうねえけどな、そねえなんもあるけど、まあそれは本人がやられて法的にやとんじゃけんどねえしょうもねえしな。そこらもある、ちょっと考えていただきてえというのがあったというのを言いたかったと思うんです。

○委員（下山哲司君） もう1点あるんです。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） この土地開発公社の件なんじゃけど、2,993万6,000円の銭は、これ一般財源からもともと出るんじやろう、前にもちよっと話したことあるけど。いつまでも抱えて回るんか。一般財源へ戻すのが筋じゃねんかな。事業をするかもしれんからというて答弁でもうちよっと言うたんじゃけど、いつまでもうちよっとになるんか。それだけ答えて。

○管財課長（戸川邦彦君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 戸川課長。

○管財課長（戸川邦彦君） 現在の土地開発公社の存続につきましては、今建設事業で用地買収に事業要望があり、国庫補助金の予算の割り当て額の動向によって必要な場合があると聞いております。その事業につきましても、数年でめどが立つものと認識しておりますので、そうなりますと、事業要望がない公社につきましては理事会のほうへその旨報告させていただきます。今後については検討していかないといけないのかなあと思っております。

以上です。

○委員長（北川勝義君） うそを言うなよ、おめえ。やめえというてわしが絶えず言うたら、一般財源へ戻せと言うたら、そうじゃないと。税金だけ7万円払うて、また新しゅう公社をこしらえることは難しいんですというて。公社こしらえるのは簡単ながなと僕が言うたら、いや

いや難しいんで、何せよろしゅうお願いしますというて、そうなってきとるわ。事業せんのもんじゃったら……。

○委員（下山哲司君） 資本金だけ置いときゃええんじゃろう。

○委員長（北川勝義君） 違う違う、資本金じゃあおえんのじゃ、そのやり方がある。解散せえというのと違うんで。今言ようように、事業は進めていくんじゃったらええけど、ねんじゃったらやめるべきじゃねえかというのは我々も言ようることなんじゃけえ、そこんとははつきり言わなんだらおえん。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） もともと、この一般財源から出したのは、事業があつて、目的で出しとったんじゃから、その事業が終わったんじゃから一旦戻して、また出そうとも戻すのが筋じゃないんかというて前に言うとなんじゃけど……。

○委員長（北川勝義君） 減額せえ言うのにしょうらん、減額しょうらんけえおえんのじゃ。

○委員（下山哲司君） 要するにそれを言うたんじゃけど、いつまでも同じことを何年も繰り返すから言よんで。ただこれをそのまま毎年するんじゃったらおかしかろうというて。一般財源の銭じゃから、一般財源へ、事業が終わったら戻すのが筋じゃないんですかと言うたん。あるときには残務処理か何かがあるからというて、それから2遍目は、今度は事業があるからというて、今回はそしたらどういうことで。今言うたように、事業がありそうだから。ありそうなんで、あるというんと、ありそうなんとは違うんじゃけえな。そのことをはつきりしてくださいと言よう。答弁お願いします。

○委員長（北川勝義君） 今言うよることはわからんことはねえ、前も聞いたら、何遍も同じこと言よう。所期の目的を達したんじゃから解散すりゃあええんじゃねえかと言うたら、解散したらまた今度はこしらえたりするときに面倒なと言う。面倒なことはねんじゃけど、面倒ですと言うから、ほんならまあそれもいたし方なかりょうと。それで次んときにゃあ、減額もせえとかいろいろいうて、またこの事業をさせていただくんじゃというて言われとったん、何の事業とは言わなんだな、事業名は何をする言わん、やりますというて言うて、今、下山さんもやります言うて1年やってねえけえおめえどうなつたらんらと言う、減額するのでも、ひょつとしたらもっと大きい事業で2億円かかるかというたら増額せにゃあおえんかもしれんし、そのやり方がありゃあ教えてほしいと言うたん。じゃけど、もう一遍……。

○委員（下山哲司君） 前に充てた銭は事業が終わったんじゃから戻すのが筋じゃないんかというて言よう。前から言よんじゃけど、全くそのままでするずるずるずるするから言よんじゃ。一旦戻すのが筋じゃろうというて。

○委員長（北川勝義君） 今の下山さんにわしが答えちゃった……。

○委員（下山哲司君） 副市長が答えりゃあええがん。

○委員長（北川勝義君） 副市長、答えいうて、答えれまあが、そがいなことを。この間のときには……。

○委員（下山哲司君） いやいや、市長のかわりじゃから。

○委員長（北川勝義君） この間のときにはこういう答え出したんじゃけえ。まあ聞きやあええけど、こういう答え出したんじゃ。公社を廃社すりゃあええんじゃねえかと言うたら、いや今度はまたつくるのに困るからさせてくれと。せえから減額じゃのうて、事業をいつまでたっても置いとんじゃねえか、一般財源に戻さにゃあおえんじゃねえかと言うたら、いやまた事業をするんですという、何の事業とは言わなんだわな。

○委員（下山哲司君） 戻すというのは、それより前に言うとな。

○委員長（北川勝義君） それを言ようるから、ぴちっとするんじゃったらどねえかせにゃあおえんということを言いたかったん。答えれるなら答えてください。

○副市長（前田正之君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 前田副市長。

○副市長（前田正之君） 先ほどから下山委員、それから北川委員長が言われているような内容のことが過去に議論されていたと思います。現段階では、そういう議論がずっとここ数年ある中で、この公社を置いといて、置いている以上活用しなくては、こういった資本金とかそういったものが非効率な運用になりますんでという話があったんですが、実際、今回も道路整備の関係で使う可能性があるというようなこともありました。そういうようなことで今年度を迎えておりますが、今後、そのことで使わないということであれば、また近い見通しが何もなければ、理事会のほうでこの整理を本当にどうしていくのか、先ほど委員長も言われていましたが、そういったことも考えていかないといけないと思います。現時点ではこの形で残して、次の理事会で正式にまたそういったことを諮っていきたいというのが現状であります。

○委員（下山哲司君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 下山委員。

○委員（下山哲司君） 前にも言うたんじゃけど、ほんならこのぴったし2,900万円でできる事業やこうありゃせんじゃから、どっちに転んだって多いじゃ少ないというから借りにゃあいけんのじゃけえ、ほんなら半分借りて半分これ使うたというより、借りるんなら全部したほうが格好がええじゃろうというて言うん。じゃけえ、一旦一般会計へ戻して、赤磐市内から銭がのうなるんじゃねんじゃから、帳面上きれいに格好よかったほうがええんじゃねんかという話をしたんじゃけど、それについてどう思うんなという。

○委員長（北川勝義君） 副市長。

○副市長（前田正之君） 確かにそういうことも……。

○委員長（北川勝義君） それをしたら解散するのと一緒のことになるんじゃ。

○副市長（前田正之君） そうなんですけど、今どういいますか、右肩上がり大きい土地を

買って先行投資でかけていくような事業が本当にあるかというのをしっかりと判断して、この存続を次の理事会では協議をしていきたいというふうな思いです。

○委員長（北川勝義君） よろしいか。

○委員（下山哲司君） よろしい。

○委員長（北川勝義君） ちょっとおかしいこと言うんじゃないけど、市長もなかなかしぶてえ。副市長もしぶとうなったのが、教育長もしぶてえ。あのな、何を言わんとしょうる、僕はもう正直な性格じゃから、口が悪いけど本当のことを言ようるだけで、作り話とか、勝手に臆測で物を言うて、何か事件でもつくり上げちゃろうか、問題をつくり上げちゃろうという性格ではない、僕はもう事実を言ようるだけで。ええ例が、吉井のときに言うた、つちのこ基金。つちのこが出るというて、つちのこじゃあと言うて、つちのこばあ、そんなことは、基金というのはもともとは何なあというたら、これは違うぞ、この基金は、普通の基金とは。水と土の基金でも、これは国土交通省の基金については。そりゃあ、果実で運営していこうというのが基金じゃから。基金を食うていっちゃんじゃったら意味ねえんじゃから。基金会計というのはそういうのが趣旨でいきょうる。じゃから、そんなに使いもせんのに、そねえなもんじゃたらつちのこ基金返せというて一般、どこでも使えるように、目的基金じゃのうてせえというのを言うたんじゃ。これとはちょっと趣旨が違うんじゃないけどな。やっぱりそういうふうなことも要らん、要するに早い話が赤磐市で不用な土地とか不用なもんがあつたら償却して要るもんを新しゅう、金がかかっても買うていくべきのことを進めるべきじゃねえかというて。今まで要りません、大きい農地が要ったんじゃというて要らんのに、もう農地やこ要らんようになったんじゃというたら、今度は要るとこの建物、これがええというの、こっちを建てりゃええと思う、金が要っても、そういうことを今後考えてもらいてえなと今思うとる。

ちょっとあわせて3つ、4つ質問させてください。これもう最後で。

総合政策部のほうの債務負担行為なんじゃけど、これはよろしい、やっていただきゃあ。じゃけど、バスの路線が、乗る人が少なかったりするんで、相手もあるんで、ちょっと路線のところを、とめる場所とか、例えば赤磐・和気線というたら、和気町と協議することじゃから、例えばと言うたら、北川病院寄っちゃってもええんじゃねえかとかというたり、上だけ通れじゃのうて、ちょっとのことじゃけん、それをしたら乗る人がふえてくると思う。吉井で言うたら、吉井から乗っていくんでも、赤磐から乗っていくときに、福田のほうの中を通っちゃってから行ったら、今支所から出発やから、支所じゃのうて、土手の辺から福田まで、仁堀まで行けというのはできんにしても、福田の辺から中の周匝福田線か、市道、そこを通過して周匝橋の上、堤防出てから行ったら、今度は乗る人もふえたり、それから逆に言うたら、そこへ行くんじゃたら森クリニックにも行く人も出るかもしれんし、ちょっとこういうやり方したら乗る人もふえるかもしれんけえ、せつかくの金じゃけえ、有効に使うてもらうことを考えてもらいてえんと、それから業者間でいろいろ問題が出て、余りよろしゅうねえと評判になるんで、余

りようねえとこはもうやめてもろうて、ぴちっと赤磐市へ資本を置いてやるとこで考えていた
だきてえのが1点あったんです。

それから、北佐古田のほうも笹岡線、乗りが少ねえとか、1.9とか1とかになったらおえん
けえ、もし言うんじゃったら、区長さんにもよう聞いていただいて、乗るもんだけじゃのう
て、この周りをちょっと回ってくれたらええんじゃねんかという、老人もおられる、ここがえ
えどと言うたら、そこへ行くことによって1人拾うんでも、ちょっと遠ゆうなっても全然乗ら
んとはカットしていくようなことも、いろいろ難しいと思うんじゃけど、やるときにちょっ
と考えていただきてえ。それで入札済ませても、今後はこういうことでちょっと変わりますよ
ということだけは、落札した業者じゃな、業者さんに承諾を得てもらいてえと思うたというの
が1点です。

それからもう1個、健全化判断比率のこの2ページのところで、出してくるときに、例えば
言うたら実質赤字と連結赤字のとこだけ13.01とか18.01になるんです。じゃけど、ほかのとこ
は25.0とか350.0と、こういう書き方、00をつけんでもえんじゃろうか、どんなんじゃろうか
なあとと思う。これ仕方が、割り算が出てくる、出てこんのがあるけえ、もし出たら25.01とか
つけにゃあおえんわけじゃろう。たまたま割り切れとるけえいきょうだけのことで、この辺
の書き方が統一してくれたほうがええんかなあと思うて。00をつけるんじゃったら00がええ
し、ゼロじゃったらゼロの、さっきの学校の成績の話をしたんじゃけど、ちょっと今そう思う
た。それ、どんなんか。

それから、1ページに戻って、1ページの法人市民税、これは前年度の予定納税でなっ
とるんじゃということの説明じゃと思うんじゃけど、これはもう会社としても合併とか支店を移す
か本店が移るとかなんとかという、こねえなことを言うたら大体わかっとなんじゃねんじゃろ
うかな。途中でわかるんじゃろうか。せえで、差し支えがなかったら、どこら辺じゃろうかとい
うのを業者がわかれば、名前まで言えんけどどこじゃという、大ざっぱがわかったら教えて
いただけりゃあと思うたんが3点目です。

それからもう2点が、保育料のことはええ、下山さんが言うたけえ。

これのちょっと恥ずかしい話をしょんじゃけど、そこの今のところへ戻って、こういうこと
を言うたら笑われるが、4ページのこの一部事務組合、広域連合というところで、これ見ようた
ら、僕が覚えとるだけでちょっと言うたら、柵原、吉井、英田火葬場施設組合がねえな、起債
をかりとるのがねえから償還がねえけえ入ってねんかもしれんのんじゃけど、どんなんじゃろ
うかなと思うて、そのこと。ちょっとそれをお答え。どねえなつとんかな、落ちとんのがどう
して落ちとんか。前から落ちとんじゃというたら、僕もよう決算ばあしうて忘れとるけん、
どんなんかなあ、わかりゃあ教えてください。

以上です。

○政策推進課長（花谷晋一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○政策推進課長（花谷晋一君） まず、バスの件についてお答えいたします。

今回、債務負担行為を上程させていただき予定の和気線と笹岡線、北佐古田線のうち、赤磐・和気線、北佐古田線は前回の委員会で御説明をさせていただきました検討路線となっております。赤磐・和気線につきましては、和気町さんとの協議をこれから開始しようとしております。その中の検討内容の1つとさせていただこうと思っております。もう1つ、北佐古田線につきましては、一度地元の区長さんとお会いして、状況とか詳しくお聞きしようと考えております。代表区長さんとかとは一度お会いして、そういう話もさせていただいたところです。そういう状況でございます。

あと、業者選定のほうにつきましては、済いません、入札担当部署とまた検討させていただければと考えております。

以上で終わります。

○委員長（北川勝義君） それについてな、やってくれりゃあえんじゃけど、和気町に。たまたま乗るところが同じ、下山さんと僕とこというたら、下山さんとも1人乗りてえし、これが50メートルあったらおえんとしても、例えばの話が48メートルで僕があったら、ここには乗ってくれるという人がおるわけじゃ。和気も、実際のところ、和気のバスのこと言うたら、塩田の駅で乗るんじゃけど、塩田の駅じゃねえでもうちよい向こうじゃったら乗っちゃうというのがあるんじゃ。駅のどこまで戻るのがあれじゃけんというて、いろいろ言ようて、もうああじゃこうじゃ言うけえ、まあええとまっちゃういうて、とまりよんじゃ。とまって、うめえことして1人乗せてふえとんじゃ。せえともう1個、熊山の駅へ入ったりするときに、熊山の駅から、もううちじゃけえ、赤磐のところへぼっけえとめるなというて和気町に文句を言うたりしたというのがあって話したら、部長らがしてくれよんじゃけど、和気町もできたら行かずに、もううちはどっちかというたら通り過ぎてもええんじゃというぐれえ、和気駅まで来てもいうのはあるんじゃけど、そうなったらいろいろ使えて便利なことがあるんで、できりゃあ、お互いに、そのときも和気町との、今課長が言うた話のときによろ交渉して、和気町も、この場所がえんじゃという場合があるから。停留所はねんじゃけど、今大体停留所のことへ行つとるが、停留所じゃのうても、ここでとめれるとこじゃったら、人がおるとこへ行っちゃうらんだら、おらんとこへ、例えば草生で言うたら、こっち、山の人は城山の下のとけえとめてもおえんのんじゃ、草生の向こうへとめちやるか、こっちへとめちやりやにやあ、とまるところがねえけえ、その間の人動けるとこへとめちやってほしいというのを、それを協議してくれというのを1個お願いしたかったんですよ。

それからもう1個、業者のことを言うのは、悪いこと言うけど、待ちよって時間どおり行きやあええけど、早う着いても待つてあげりゃあえんじゃけど、違うとこで、涼しいとこで休憩したり、行きようるときに、いつも来ん人が、そのときに限り、これ僕聞いて、本当、行っ

とんじゃ。酷な話で、その運転手も悪いことはねんじゃけど、いっつも来んけん、ちょっと早う出たら、その後だだだだだだあ来てから、そのとき来たというのがあるから、やっぱりちょっとそこらも顔を知らんから、つき合いがねえからなったりするのもある。そこらもよう考えていただきてえというのがあったんです。それでよろしいです。よろしゅうお願いします。

それから、次のを教えて。

○税務課長（遠藤健一君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○税務課長（遠藤健一君） 御質問いただきましたのは、財務部資料にございます一般会計補正予算の案でございますが、歳出の予備費、これの原因になりました法人市民税の過年度還付、これはどこのどういう内容であったかということでございます。

事業所の名前につきましては差し控えさせていただきますが、今回急遽ございました市内の製造業者2者でございます。いずれも3月の決算を迎えられて確定申告をなされた結果、いずれの2者につきましても減益でありますということで。特に、これ以上余り申し上げないほうがいいかもしれませんけれども、委員さん皆さん御存じだと思うんですけど、大きいほうの1者へ1,000万円ほどお返しする分につきましては、赤磐市内での操業から撤退をされるということでの減益ということでございました。もう1者のほうは、工業団地の中で世界的にも有名なといいますか、パーツをされている事業者さんでございますけれど、やはりこちらのほうも、経済情勢としては企業の皆さん、今頑張っておられるんですけど、いろんな貿易摩擦の問題でありますとか為替の問題、少々そういうことがございまして今回減益なんですというお話で、約400万円ということで。委員長お見込みのとおり、法人市民税につきましては、前事業年度の所得割が20万円以上ありましたら中間申告で予定納税をしていただかなければいけないというルールがございます。所得割というのが12.1%、今度10月からはこれがまた8.4%に下がるんですけど、今現在は12.1%でございますので、ざっと逆算をしましても、億という金額が減益というようなことになっております。そのあたりは御理解をいただきたいと思うんですけど、それで急遽お返しするということになりまして、今回予備費をお願いしたものでございます。

以上でございます。

○財政課長（和田美紀子君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 課長。

○財政課長（和田美紀子君） まず、2ページの早期健全化基準の桁につきましては、上の①と②が下2桁までの計算値で出すことが決まっておりますので合わせさせていただきます。来年は見やすく、下の2つをゼロ2つ……。

○委員長（北川勝義君） 別についても問題ねんじゃろう。00についても問題ねんじゃろう。

○財政課長（和田美紀子君） それは問題ないと思います。これは任意の資料です。

○委員長（北川勝義君） 計算式になったらひょっと出る場合がある。

○財政課長（和田美紀子君） そうです。わかりやすくつくりましたものですので、そう改善させていただきます。ありがとうございます。

それから、4ページの一部事務組合、広域連合につきましては、この様式を特に、ここ左を変えていないからということもあるんですが、実は大体11組合ある中のをほかにまとめてしまって、柵原、吉井、英田火葬場施設組合も計算値の中にももちろん入るんですが、今年度も計上すべき経費というのがなかったの、ほかの中にまとめてしまっているということになります。

○委員長（北川勝義君） ほかの中に入っとるわけじゃな。

○財政課長（和田美紀子君） 来年はわかりやすく、全て載せたほうがいいかなとも思いますので……。

○委員長（北川勝義君） 人件費がねえからということかな、それでも支出はあるがな、せえでも。

○財政課長（和田美紀子君） 組合負担額、この計算に入れる見込み額がないんです。将来負担がないので、済いません、省略させていただいてるような状況です。

○委員長（北川勝義君） わかりました。

○財政課長（和田美紀子君） ありがとうございます。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。

他にありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（北川勝義君） 他にないようなので、これでその他を終わりたいと思います。

第9回の総務文教常任委員会を閉会したいと思います。

閉会に当たりまして、内田教育長のほうから御挨拶をいただきたいと思います。

○教育長（内田恵子君） 委員長。

○委員長（北川勝義君） 内田教育長。

○教育長（内田恵子君） 総務文教常任委員の皆様には、御多用のところ、事業の進捗状況、そして9月の議案の案件につきまして慎重に御審査をいただき、ありがとうございました。また、さまざまな御意見をいただきました。今後検討をしてみたいと思います。今後ともよろしく願いいたします。

以上です。

○委員長（北川勝義君） ありがとうございます。

これで終わりたいと思います。

御苦労さまでした。

午後3時58分 閉会